

中間財務諸表

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当行の中間貸借対照表、中間損益計算書及び中間株主資本等変動計算書は、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。

中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2018年度中間期末 2018年9月30日現在	2019年度中間期末 2019年9月30日現在
(資産の部)		
現金預け金	51,791,818	54,409,967 ^{*8}
コールローン	1,850,707	1,114,986
買現先勘定	2,876,602	3,513,807
債券貸借取引支払保証金	1,144,423	958,916
買入金銭債権	1,508,037	1,635,003
特定取引資産	1,795,679	2,246,305 ^{*8}
有価証券	25,251,730	27,121,374 ^{*1,2,8,13}
貸出金	76,232,734	76,708,140 ^{*3,4,5,6,7,8,9}
外国為替	2,263,629	1,849,851 ^{*7}
その他資産	3,066,263	3,565,899 ^{*8}
有形固定資産	796,487	800,707
無形固定資産	226,883	229,024
前払年金費用	301,760	334,388
支払承諾見返	9,016,490	8,851,228
貸倒引当金	△254,381	△256,088
投資損失引当金	△10,169	△107,451
資産の部合計	177,858,696	182,976,062

(単位：百万円)

科目	2018年度中間期末 2018年9月30日現在	2019年度中間期末 2019年9月30日現在
(負債の部)		
預金	113,331,228	115,882,411
譲渡性預金	11,330,980	11,923,548
コールマネー	1,077,642	653,943
売現先勘定	8,398,472	9,210,313 ^{*8}
債券貸借取引受入担保金	438,532	606,131 ^{*8}
コマーシャル・ペーパー	1,851,292	981,578
特定取引負債	1,558,058	2,122,111
借入金	14,435,776	16,919,777 ^{*8,10}
外国為替	1,126,098	1,212,531
社債	3,409,763	2,560,870 ^{*11}
信託勘定借	1,319,712	1,483,719 ^{*8,12}
その他負債	2,155,192	2,020,359
未払法人税等	7,990	18,327
リース債務	3,515	3,173
資産除去債務	10,057	7,366
その他の負債	2,133,628	1,991,491
賞与引当金	12,788	12,541
ポイント引当金	548	280
睡眠預金払戻損失引当金	11,842	3,440
繰延税金負債	369,572	418,163
再評価に係る繰延税金負債	30,423	30,168
支払承諾	9,016,490	8,851,228 ^{*8}
負債の部合計	169,874,415	174,893,120
(純資産の部)		
資本金	1,770,996	1,770,996
資本剰余金	1,774,554	1,774,554
資本準備金	1,771,043	1,771,043
その他資本剰余金	3,510	3,510
利益剰余金	3,218,786	3,240,494
その他利益剰余金	3,218,786	3,240,494
行員退職積立金	1,656	1,656
別途準備金	219,845	219,845
繰越利益剰余金	2,997,285	3,018,993
自己株式	△210,003	△210,003
株主資本合計	6,554,334	6,576,042
¹⁾ 他有価証券評価差額金	1,507,881	1,372,616
繰延ヘッジ損益	△103,538	108,805
土地再評価差額金	25,602	25,476
評価・換算差額等合計	1,429,945	1,506,899
純資産の部合計	7,984,280	8,082,942
負債及び純資産の部合計	177,858,696	182,976,062

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	2018年度中間期 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	2019年度中間期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日
経常収益	1,416,606	1,512,177
資金運用収益	961,589	993,700
⁽²⁾ 貸出金利息	(636,958)	(653,232)
⁽²⁾ 有価証券利息配当金	(170,864)	(172,467)
信託報酬	1,003	948
役務取引等収益	254,565	252,598
特定取引収益	3,196	57,829
その他業務収益	76,143	109,749
その他経常収益	120,107	97,350 ^{*1}
経常費用	1,008,329	1,220,106
資金調達費用	475,799	552,499
⁽²⁾ 預金利息	(178,240)	(192,140)
役務取引等費用	97,519	101,964
特定取引費用	350	—
その他業務費用	18,381	24,574
営業経費	399,113	408,966 ^{*2}
その他経常費用	17,163	132,100 ^{*3}
経常利益	408,277	292,071
特別利益	80	230 ^{*4}
特別損失	2,307	1,847 ^{*5}
税引前中間純利益	406,050	290,453
法人税、住民税及び事業税	74,873	80,416
法人税等調整額	30,284	16,009
法人税等合計	105,158	96,426
中間純利益	300,891	194,027

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	2018年度中間期 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日							
	株主資本				利益剰余金			
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	行員退職積立金	別途準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,770,996	1,771,043	5,786	1,776,830	1,656	219,845	2,822,674	3,044,175
当中間期変動額								
剰余金の配当			△73	△73			△126,541	△126,541
中間純利益							300,891	300,891
子会社の組織再編による減少			△2,202	△2,202				
土地再評価差額金の取崩							261	261
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)								
当中間期変動額合計	—	—	△2,275	△2,275	—	—	174,610	174,610
当中間期末残高	1,770,996	1,771,043	3,510	1,774,554	1,656	219,845	2,997,285	3,218,786

(単位：百万円)

	2018年度中間期 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日						
	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△210,003	6,381,999	1,519,691	△6,286	25,863	1,539,268	7,921,268
当中間期変動額							
剰余金の配当		△126,615					△126,615
中間純利益		300,891					300,891
子会社の組織再編による減少		△2,202					△2,202
土地再評価差額金の取崩		261					261
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)			△11,809	△97,251	△261	△109,322	△109,322
当中間期変動額合計	—	172,335	△11,809	△97,251	△261	△109,322	63,012
当中間期末残高	△210,003	6,554,334	1,507,881	△103,538	25,602	1,429,945	7,984,280

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

	2019年度中間期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日							
	株主資本				利益剰余金			
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	行員退職積立金	別途準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,770,996	1,771,043	3,510	1,774,554	1,656	219,845	2,975,003	3,196,504
当中間期変動額								
剰余金の配当							△150,128	△150,128
中間純利益							194,027	194,027
土地再評価差額金の取崩							91	91
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)								
当中間期変動額合計	—	—	—	—	—	—	43,989	43,989
当中間期末残高	1,770,996	1,771,043	3,510	1,774,554	1,656	219,845	3,018,993	3,240,494

(単位：百万円)

	2019年度中間期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日						
	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△210,003	6,532,053	1,427,008	△22,444	25,568	1,430,131	7,962,185
当中間期変動額							
剰余金の配当		△150,128					△150,128
中間純利益		194,027					194,027
土地再評価差額金の取崩		91					91
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)			△54,391	131,250	△91	76,767	76,767
当中間期変動額合計	—	43,989	△54,391	131,250	△91	76,767	120,756
当中間期末残高	△210,003	6,576,042	1,372,616	108,805	25,476	1,506,899	8,082,942

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(重要な会計方針)

1.特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下、「特定取引目的」という)の取引については、取引の約定時点等を基準とし、中間貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を中間損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については中間決算日の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については中間決算日において決済したものとみなした額により行っております。また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当中間会計期間中の受払利息等に、有価証券、金銭債権等については前事業年度末と当中間会計期間末における評価損益の増減額を、派生商品については前事業年度末と当中間会計期間末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

2.有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち株式(外国株式を含む)については中間決算日前1カ月の市場価格の平均等、それ以外については中間決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。なお、その他有価証券の評価差額については、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額を除き、全部純資産直入法により処理しております。

3.デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く)の評価は、時価法により行っております。

4.固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

有形固定資産は、定額法(ただし、建物以外については定率法)を採用し、年間減価償却費見積額を期間により按分し計上しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7年～50年
その他	2年～20年

(2)無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年～10年)に基づいて償却しております。

(3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

5.引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる破綻懸念先に係る債権及び債権の全部又は一部が3カ月以上延滞債権又は貸出条件緩和債権に分類された今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち与信額一定額以上の大口債務者に係る債権等については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もり、当該キャッシュ・フローを当初の約定利子率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を特定海外債権引当勘定として計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部店と所管審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部が査定結果を監査しております。なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は92,179百万円であります。

(2)投資損失引当金

投資損失引当金は、投資に対する損失に備えるため、有価証券等の発行会社の財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。

(3)賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当中間会計期間に帰属する額を計上しております。

(4)退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により損益処理
数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌の翌事業年度から損益処理

(5)ポイント引当金

ポイント引当金は、「SMBCポイントパック」におけるポイントの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を合理的に見積もり、必要と認める額を計上しております。

(6)睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

6.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債及び海外支店勘定については、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式及び関連会社株式を除き、主として中間決算日の為替相場による円換算額を付しております。

7.ヘッジ会計の方法

(1)金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。小口多数の金銭債権債務に対する包括ヘッジについては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号平成14年2月13日。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という)に規定する繰延ヘッジを適用しております。相場変動を相殺する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を残存期間ごとにグルーピングのうえ有効性の評価をしております。また、キャッシュ・フローを固定する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。個別ヘッジについても、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

(2)為替変動リスク・ヘッジ

異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われる通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号平成14年7月29日。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という)に基づく繰延ヘッジを適用しております。これは、異なる通貨での資金調達・運用に伴う外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、その外貨ポジションに見合う外貨建金銭債権債務が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価するものであります。また、外貨建子会社株式及び関連会社株式並びに外貨建その他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に、包括ヘッジとして繰延ヘッジ又は時価ヘッジを適用しております。

(3)株価変動リスク・ヘッジ

その他有価証券から生じる株価変動リスクを相殺する個別ヘッジについては時価ヘッジを適用しており、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

(4)内部取引等

デリバティブ取引のうち特定取引勘定とそれ以外の勘定との間(又は内部部門間)の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カバー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

8.その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、中間連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(3)連結納税制度の適用

当行は、株式会社三井住友フィナンシャルグループを連結納税親会社とする連結納税制度を適用しております。

(中間貸借対照表関係)

- ※1. 関係会社の株式及び出資金総額
株式及び出資金 4,061,543百万円
- ※2. 無担保の消費貸借契約により借り入れている有価証券並びに現先取引及び現金担保付債券貸借取引等により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券、再貸付けに供している有価証券及び当中間会計期間末に当該処分をせずに所有している有価証券は次のとおりであります。
(再)担保に差し入れている有価証券 5,205,065百万円
再貸付けに供している有価証券 11,379百万円
当中間会計期間末に当該処分をせずに所有している有価証券 1,427,520百万円
- ※3. 貸出金のうち、破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。
破綻先債権額 10,706百万円
延滞債権額 357,237百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立で又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

- ※4. 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。
3カ月以上延滞債権額 4,776百万円
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※5. 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。
貸出条件緩和債権額 86,470百万円
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。
合計額 459,191百万円
なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- ※7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

※8. 担保に供している資産は次のとおりであります。	823,842百万円
担保に供している資産	
現金預け金	446,156百万円
特定取引資産	40,999百万円
有価証券	5,556,324百万円
貸出金	10,167,712百万円

担保資産に対応する債務	
売現先勘定	4,852,800百万円
債券貸借取引受入担保金	606,131百万円
借入金	8,831,352百万円
信託勘定借	284,945百万円
支払承諾	393,599百万円

上記のほか、資金決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

現金預け金	1,045,124百万円
特定取引資産	140,502百万円
有価証券	7,016,302百万円
また、その他資産には、金融商品等差入担保金、保証金及び先物取引差入証拠金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。	
金融商品等差入担保金	1,646,497百万円
保証金	55,728百万円
先物取引差入証拠金	7,627百万円

- ※9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	61,173,189百万円
うち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なもの	42,646,070百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※10. 借入金には、劣後特約付借入金が含まれております。
劣後特約付借入金 7,177,009百万円
- ※11. 社債には、劣後特約付社債が含まれております。
劣後特約付社債 540,271百万円
- ※12. 信託勘定借には、信託勘定が発行する債権担保付社債(カバードボンド)に関連した信託勘定からの借入金が含まれております。
債権担保付社債(カバードボンド)に関連した信託勘定からの借入金 284,945百万円
- ※13. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する当行の保証債務の額 1,635,771百万円
14. 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりであります。
金銭信託 14,847百万円

(中間損益計算書関係)

- ※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。
株式等売却益 92,152百万円
- ※2. 減価償却実施額は次のとおりであります。
有形固定資産 14,023百万円
無形固定資産 37,829百万円
- ※3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。
投資損失引当金繰入額 100,088百万円
株式等売却損 13,468百万円
- ※4. 特別利益は次のとおりであります。
固定資産処分益 230百万円
- ※5. 特別損失は次のとおりであります。
減損損失 1,274百万円
固定資産処分損 573百万円

(企業結合等関係)

企業結合等関係について記載すべき重要なものはありません。

(重要な後発事象)

重要な後発事象について記載すべきものはありません。

有価証券関係 (2019年度中間期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

有価証券の範囲

中間貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。

(1)満期保有目的の債券

該当ありません。

(2)子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

	2019年9月末		
	中間貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	322,585	201,986	△120,598
合計	322,585	201,986	△120,598

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額
子会社株式	3,514,437
関連会社株式	187,822
その他	36,698
合計	3,738,958

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(3)其他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2019年9月末		
		中間貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	2,832,678	1,127,719	1,704,958
	債券	10,606,841	10,541,623	65,217
	国債	7,901,167	7,876,515	24,652
	地方債	107,309	106,676	633
	社債	2,598,364	2,558,432	39,932
	その他	5,166,937	4,954,334	212,603
	小計	18,606,457	16,623,677	1,982,780
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	171,313	216,378	△45,064
	債券	809,802	812,225	△2,422
	国債	601,261	602,276	△1,014
	地方債	51,006	51,043	△36
	社債	157,534	158,905	△1,371
	その他	3,762,446	3,814,853	△52,406
	小計	4,743,563	4,843,456	△99,893
合計		23,350,020	21,467,133	1,882,886

(注)1.差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた金額は13,980百万円(費用)であります。

2.時価を把握することが極めて困難と認められる其他有価証券(単位：百万円)

	中間貸借対照表計上額
株式	95,922
その他	257,211
合計	353,134

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「其他有価証券」には含めておりません。

(4)減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当中間会計期間におけるこの減損処理額は1,798百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

有価証券関係 (2018年度中間期 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

有価証券の範囲

中間貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。

(1)満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2018年9月末		
		中間貸借 対照表計上額	時価	差額
時価が中間貸借対照表計上額を超えるもの	国債	40,014	40,333	318
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	小計	40,014	40,333	318
時価が中間貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	小計	—	—	—
合計	40,014	40,333	318	

(2)子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

	2018年9月末		
	中間貸借 対照表計上額	時価	差額
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	370,081	367,616	△2,464
合計	370,081	367,616	△2,464

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式
(単位：百万円)

	中間貸借 対照表計上額
子会社株式	2,968,259
関連会社株式	155,203
その他	32,708
合計	3,156,171

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(3)その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2018年9月末		
		中間貸借 対照表計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	3,394,987	1,301,789	2,093,197
	債券	5,652,441	5,612,435	40,006
	国債	3,604,045	3,593,490	10,554
	地方債	482	455	27
	社債	2,047,913	2,018,489	29,424
	その他	2,578,107	2,412,509	165,597
小計	11,625,536	9,326,734	2,298,801	
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	127,177	141,470	△14,292
	債券	3,880,897	3,896,841	△15,944
	国債	3,342,150	3,354,490	△12,339
	地方債	55,084	55,248	△164
	社債	483,662	487,102	△3,440
	その他	6,339,849	6,549,476	△209,626
小計	10,347,924	10,587,788	△239,863	
合計	21,973,461	19,914,523	2,058,938	

(注)1.差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた金額は2,098百万円(収益)であります。

2.時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	中間貸借 対照表計上額
株式	96,048
その他	235,988
合計	332,036

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(4)減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって貸借対照表価額とし、評価差額を当中間会計期間の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当中間会計期間におけるこの減損処理額は1,183百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

金銭の信託関係 (2019年度中間期 自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(1)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(2)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

該当ありません。

金銭の信託関係 (2018年度中間期 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

(1)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(2)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

該当ありません。

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引 (単位：百万円)

区分	種類	2019年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	40,046,540	3,850,517	△39,674	△39,674
	買建	39,045,490	3,749,138	40,534	40,534
店頭	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	113,354,830	96,129,444	3,120,687	3,120,687
	受取変動・支払固定	109,936,797	93,193,355	△2,952,885	△2,952,885
	受取変動・支払変動	25,168,291	22,056,435	1,556	1,556
	金利スワップション				
	売建	2,432,267	1,508,714	8,630	8,630
	買建	1,770,849	1,214,366	△11,195	△11,195
	キャップ				
	売建	579,548	447,076	△263	△263
	買建	203,684	150,840	△754	△754
フロアー					
	売建	65,685	65,530	△465	△465
	買建	340,572	210,292	1,898	1,898
合計			168,068	168,068	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2)通貨関連取引 (単位：百万円)

区分	種類	2019年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	23,756,201	19,627,349	△82,240	4,333
	通貨スワップション				
	売建	277,055	109,430	△840	△840
	買建	787,913	582,134	2,335	2,335
	為替予約	50,120,162	3,072,273	37,738	37,738
	通貨オプション				
	売建	1,884,835	594,639	△3,250	△3,250
買建	1,618,381	431,793	14,406	14,406	
合計			△31,851	54,722	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3)株式関連取引 (単位：百万円)

区分	種類	2019年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	384,411	—	1,980	1,980
	買建	366,404	—	△566	△566
	株式指数オプション				
	売建	29,250	—	△28	△28
	買建	31,375	—	66	66
合計				1,450	1,450

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
大阪取引所等における最終の価格によっております。

(4)債券関連取引 (単位：百万円)

区分	種類	2019年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	2,151,979	—	7,662	7,662
	買建	2,090,973	—	△8,763	△8,763
	債券先物オプション				
	売建	38,855	—	△43	△43
	買建	34,379	—	48	48
店頭	債券店頭オプション				
	売建	80,000	—	△41	△41
	買建	80,000	—	212	212
合計				△923	△923

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデルにより算定しております。

(5)商品関連取引 (単位：百万円)

区分	種類	2019年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	52,280	—	712	712
	買建	53,569	—	△478	△478
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	81,691	38,500	4,760	4,760
	変動価格受取・固定価格支払	79,990	37,107	△2,895	△2,895
	変動価格受取・変動価格支払	1,731	1,323	24	24
	商品オプション				
	売建	3,463	2,360	△380	△380
	買建	1,332	310	△22	△22
合計			1,720	1,720	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。
3.商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6)クレジット・デリバティブ取引 (単位：百万円)

区分	種類	2019年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	97,282	83,044	804	804
	買建	194,564	166,088	△1,609	△1,609
合計			△804	△804	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。
3.売建は信用リスクの引受取引、買建は信用リスクの引渡取引であります。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引 (単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年9月末		
			契約額等	前1年超	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他有価証券、預金、譲渡性預金等の有利利息の金融資産・負債			
	売建		—	—	—
	買建		6,475,800	—	△1,273
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動		38,343,360	34,758,898	533,387
	受取変動・支払固定		15,073,810	14,567,884	△460,235
	受取変動・支払変動		—	—	—
金利スワップション					
売建		152,720	152,720	14,776	
買建		—	—	—	
合計				86,655	

(注)1.主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2.時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2)通貨関連取引 (単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年9月末		
			契約額等	前1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、有価証券、預金、外国為替等	8,039,415	5,296,480	101,437
合計					101,437

(注)1.主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2.時価の算定
割引現在価値により算定しております。

(3)株式関連取引 (単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年9月末		
			契約額等	前1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ 株価指数変化率受取・金利支払 金利受取・株価指数変化率支払	その他有価証券			
			—	—	—
			40,751	40,751	△4,406
合計					△4,406

(注) 時価の算定
割引現在価値により算定しております。

デリバティブ取引関係 (2018年度中間期 自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	33,611,462	5,597,872	22,478	22,478
	買建	34,469,151	5,532,747	△20,544	△20,544
店頭	金利スワップ				
	受取固定・支払変動	113,669,851	90,051,895	△133,022	△133,022
	受取変動・支払固定	111,414,021	87,669,002	167,067	167,067
	受取変動・支払変動	23,000,838	16,471,879	2,927	2,927
	金利スワップション				
	売建	2,490,910	1,687,742	△10,518	△10,518
	買建	2,339,083	1,622,132	26,137	26,137
	キャップ				
	売建	590,739	516,217	△1,073	△1,073
	買建	253,400	231,112	△274	△274
フロアー	売建	56,501	56,501	△215	△215
	買建	842,975	402,575	△389	△389
	合計			52,573	52,573

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	18,852,180	14,086,839	63,200	41,162
	通貨スワップション				
	売建	388,368	311,088	△708	△708
	買建	762,514	676,467	1,095	1,095
	為替予約	55,530,655	2,768,414	29,524	29,524
	通貨オプション				
	売建	2,247,904	613,099	△16,130	△16,130
	買建	2,164,410	506,977	21,095	21,095
合計			98,077	76,039	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	271,237	—	△9,345	△9,345
	買建	270,189	—	10,733	10,733
	株式指数オプション				
	売建	7,500	—	15	15
	買建	25,000	—	30	30
合計				1,433	1,433

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
大阪取引所等における最終の価格によっております。

(4)債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	2,172,345	—	14,851	14,851
	買建	2,038,411	—	△14,444	△14,444
	債券先物オプション				
	売建	99,751	—	△141	△141
	買建	149,079	—	84	84
合計				351	351

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
大阪取引所等における最終の価格によっております。

(5)商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	99,953	—	642	642
	買建	102,054	—	△670	△670
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	57,696	44,012	△7,797	△7,797
	変動価格受取・固定価格支払	57,049	42,987	9,450	9,450
	変動価格受取・変動価格支払	2,481	2,323	△94	△94
	商品オプション				
	売建	6,932	3,485	△363	△363
	買建	4,624	1,177	20	20
合計				1,186	1,186

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。
3.商品は燃料及び金属に係るものであります。

(6)クレジット・デリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年9月末			
		契約額等	前1年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	67,697	60,129	713	713
	買建	135,395	120,259	△1,426	△1,426
	合計			△713	△713

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を中間損益計算書に計上しております。
2.時価の算定
割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。
3.売建は信用リスクの引受取引、買建は信用リスクの引渡取引であります。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の中間決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2018年9月末		
			契約額等	前1年超	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他有価証券、預金、譲渡性預金等の有利息の金融資産・負債	12,948,120	340,740	2,432
			売建	—	—
	金利スワップ	受取固定・支払変動	35,515,692	28,499,178	△139,090
			受取変動・支払固定	13,539,574	11,748,081
	金利スワップション	受取変動・支払変動	—	—	—
			売建	160,715	160,715
		買建	—	—	—
	合計				△79,615

(注)1.主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2.時価の算定
取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2018年9月末		
			契約額等	前1年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、有価証券、預金、外国為替等	6,856,397	3,924,557	△79,910
			合計		

(注)1.主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。
2.時価の算定
割引現在価値により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2018年9月末		
			契約額等	前1年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ 株価指数変化率受取・金利支払 金利受取・株価指数変化率支払	その他有価証券	—	—	—
			44,909	44,909	△4,859
合計					△4,859

(注) 時価の算定
割引現在価値により算定しております。